

【文化部】

文化部は關口副会長(文化部部長)を中心に谷本副部長のリーダーでスミス理事、小川理事の担当で、秋祭りと同様に既に日本人会の行事としてなくてはならないハロウィンパーティー、アートアンドクラフトフェアの主催、戦争で亡くなられた兵隊さんの慰霊、グアムの市民が戦争の犠牲者のための慰霊祭参加とご尽力頂きました。有難うございました。スミス理事、小川理事も理事を3年間勤められました。お疲れさんでございました。クアツプをするため、総領事邸で食事会を開いて頂いたと聞いています。

スミス理事、小川理事も理事を3年間勤められました。お疲れさんでございました。

【商工部】

この部は法人会員の皆様に参加頂いてビジネスのお話しをお聞きする座談会と法律、会計の専門家にお話しをお伺いする日本人の法人会員の皆様への何かお手つだいをしたいとの、日本人商工会議所の役目です。關口副会長、商工部部長兼務で中根理事にサポートでご尽力頂きました。有難うございました。

【渉外広報部】

部長の小松さんは会社の異動命令でつい最近日本に帰国されました。小松さんと塩澤理事が毎月のラッテの編集に編集員の皆さんと締め切り期日のプレッシャーに追われるお仕事ご苦労さまでした。又秋祭りの広報担当、日本人会の行事の紹介と無くてはならない部活動です。小松部長も今期で3期の理事完了でした。お疲れさまでした。

【会計部】

松本会計部長には前中西会計部長が転勤後、松本さんをサポートする会計部の理事がない厳しい状況下、日本人会の会計と日本人学校の会計を担当と大変なお役目を引き受けて頂きました事、深く感謝申し上げます。会計の詳細を皆様にご報告宜しくお願い申し上げます。

以上簡単ですが私の日本人会活動の総括をさせて頂きました。

7. 各部報告

教育部

部長 日吉 淳

1. 2016年度活動報告について

(1) 活動方針と実施内容

日本人学校の安定的な維持継続を目標とする

- ①日本人学校の種々行事に参加していく
月例学校理事会(月1回開催)の参加
全日制、補習校、幼稚部の入学式・卒業式への参加
運動会・スポーツ大会への参加
PTA行事への参加(バザー等)
領事館と教育部以外の関係者への行事参加を要請(下記④)
- ②チャリティゴルフ等のイベントを開催し、日本人学校への寄付を行う
7/27 チャリティゴルフ大会 レオパレスにて実施
寄付総額 \$7820.05
PTAフリマとファンドレイズ活動(ウォーターパークチケット販売)
売上総額 \$8,000
その他企業、団体からの寄付を頂いた。
- ③外務省への支援要請
学校警備費用の補助・助成を受けることができ、土曜日だけだった警備を平日の夕方にも警備配備を行うことができた。
- ④現地採用教員の面接を実施
- ⑤経営の安定化を図るプロジェクトを実施
経営改善プロジェクトチームを結成し、アクションプランを作成した。
現在の財務状況の把握を学校理事会理事と学校職員も共有し、課題解決のための議論を行った。

全日制の在籍数を100名に増やすことを目標にすることとした。

※2016年度3月末現在で61名、2017年度4月で50名となる。
そのためのプロジェクトを立案し、一つ一つ実行し始めた。(以下は具体例)

補習校の習熟度別学習が効果を上げ、本年度はさらに履修生(卒業生や地域の方)の受入れも行い収入増の成果を出した。

学校行事へ教育部以外の理事や学校関係者の参加を促し、結果多くの方に学校の実情や良さ魅力を知ってもらうことができた。

ラッテ新聞内の学校頁編集に教育部より参加し、地域企業のご協力報告や他行との違いなどの紹介を行ったり、入学募集案内を取入れるよう校正した。

星条旗新聞への学校紹介の記事掲載を行い、入学募集広告を掲載した。既に多くの問い合わせを頂くようになった。

(2) 課題と今後の対応

日本人学校の抱える最大の課題は財政基盤の脆弱であること。

在籍人数を増やしていくことが唯一の解決策。

現在の人数のまま推移すると5年後(2022年)には預貯金が枯渇する。

そのためのプロジェクトを立案し、実行して、さらに可能な限り継続していく。

人数を増やすための取組み、入学しやすい取組、入学したい学校になるような取組。

(以下具体案として検討・議論中)

サマースクールやスプリングスクールなど、長期休暇中も学校を開放し生徒増につなげるカリキュラムや体制を模索。

学校理事会だけでは困難な財政難打開に向けた支援要請について議論。

今まで日本人会としては教育部の関係者しか携わってこなかったため日本人学校の良さ、魅力が多くの方々に伝わりにくかったと思います。本年度は多くの方にそのことを知ってもらうことがまず最初の取組みであるとしてスタートし、一歩進むことができたと思います。その上で、新入生増加につながる企業や団体支援などあらゆる活動を学校理事会を中心に日本人会の皆様にもお願いしながら取り組んでいきたい。

渉外広報部

副部長 塩澤 伸江

編集委員の皆さんにご協力をいただきラッテの発行をしていますが、印刷物のまま継続するか、デジタルにするかという事に関して何度か意見の交換をしています。

印刷物の経費、配達経費などを考えるとデジタルにするのが現状に叶っているものの、高齢の会員の方の中にはパソコン等を使用していない方も少なくなく、毎月のラッテを楽しみにして下さる方もいるということです。また、会員以外の方で事務局に来られた方が持ち帰られるという点では、ラッテが会員勧誘の一役になる可能性も否定できないことから、今のところはそのままの形で継続するというようにしております。

この春で編集委員の小松・田中両氏が帰国されましたので、早急に編集委員の募集をかける必要があります。渉外広報のもうひとつの大きな役目として、秋祭りの広告、印刷物の作成がありますが、昨年は期日に追われた感がありましたので、今年はデータの依頼先も含めスムーズに作業がはかどるように早めに準備をするよう、離任された小松前部長より申し送りがありますので、その旨きちんと実行いたします。